

「浅田孝と田村明」話題提供メモ

1961(昭 36) 04 *浅田孝 (株環境開発センターを設立(40 歳))
 1963(昭 38) 01 *田村明 入社 (36 歳)
 1968(昭 43) 04 *田村明 退社 (勤務年数 5.3 年)

1. 浅田・田村と環境開発センター

●浅田・田村の出会い・交流とそれぞれの個性

*出会い・交流の 3 つのステージ ①丹下研から入社まで、②(株環境開発センター時代、③市役所入庁後

*それぞれの個性

浅田 :時代の最先端の課題に対する強烈な関心/発想の仕方がデザインの。建築のデザイン、社会のデザイン、組織のデザインなど/全体の構図は先見性あるトータルイメージとディテール

田村 :信念を実現する情熱/全体像の把握と体系化/事業推進の組織戦略、

●浅田孝 創設の理念

(株環境開発センターは、それまでの活動成果を集約する社会実践

「強力なプランニングボードの創設を提唱する」(1961 (昭 36) 08)

初めに/現代は総合を要求している/地域計画のあるべき姿/プランニングボードはなぜ必要か(①地域計画・施設計画は戦略である。②日本の現状は強力な計画の体制を必要としている。)

●田村明 プランニングボードの活動イメージ

「地域計画機関のあり方について」 (1962 (昭 37) 08)

A 現状において如何なる欠陥があるか/B これから如何なる仕事をすべきか/C 如何なる仕事であるべきか(内容、方法)/D どのような fee を請求できるか/E 如何なる組織、人員が必要か

2. (株環境開発センターが目指した活動

～総合性とプロジェクト主義に関連して

●戦略的な体制

*内部組織 社長/秘書/計画部(田村部長)/設計部/事務
 戦略的ヘッドクォーター部門

*外部との連携 建築家・プランナー事務所ネットワーク
 委員会方式

- 明確なトータルイメージ ～ 計画の市民化への重要な要素
 - *明確な目標イメージの提示
 - ～横浜六大事業、鹿島工業地域ゴールデン・トライアングル
 - *明快なビジュアルイメージの提示
- 総合的な視点
 - *近畿万国博覧会構想に関する研究報告(その1) 大阪府 1965.3.10
 - 地域開発～主要観光拠点の整備、
 - 跡地利用～近畿圏における学術文化センター
 - *堺・泉北臨海工業地帯環境整備に関する基本調査・研究 大阪府 1965.6
 - 総論と環境整備の11項目、計画策定体制、付属資料の時代的意義
 - 「ニューヨーク港とその水際地域の運営」
 - 「Stanford Industrial Park」(⇒シリコンバレー)
- 動態的アプローチ
 - *鹿島工業都市圏環境整備計画報告書 茨城県 1964.3
 - <地域開発計画の問題点>
 - 生産面へのかたより/具体的な開発計画の不足～物的計画につながる段階をことに重視/総合的計画の未熟/計画のギャップ～コントロール機関の不在/計画の脆弱性～具体的な情勢変化をリードするプログラムが必要
- 新しい時代の予見
 - 子ども=こどもの国、五色台/福祉/市民参加/住居表示=地区計画/総合性の担保=三公の原則(公平、公共、公開)

3.横浜の街づくり構想の誕生

- 横浜市将来計画に関する基礎調査報告書(昭和39年12月5日)
 - *都市の骨格を創る
 - 明治以後100年の国民のストックは貧困であり、六大事業は自治体のストック形成、戦略的プランニングの問題
 - 法定都市計画は、都市の骨格づくりを総合的に実現するものではない。六大事業は、長期に亘る地域社会の骨格的なストックを総合的に形成する基幹的事業
 - *ジェネレイティング・システム(生成システム)
 - いくつかのサブシステムをうまく構成して、内挿しておく、それがやがて全体のシステムに影響を及ぼす自立性をだんだん持って来る
 - 「横浜の都市づくり～市民がつくる横浜の未来」(昭和40年10月1日)
 - 田村明 人的資産・構想策定プロセスのすべてを携えて横浜市へ